

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和3(2021)年4月1日 木曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



第148回通常宗議会

大遠忌 関連事業は中止へ 令和3年度予算を可決

第148回通常宗議会が3月9日、10日の会期2日間で開催され、令和3年度予算11億3378万円を含む議案15件、報告3件を可決決定した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止から、伝教大師一千二百年大遠忌の関連法要である教区法要と各教宗派法要の中止と、「不滅の法灯全国行脚」を凍結することが阿部昌宏宗務総長から報告された。



阿部内局にとって初宗議会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出により当初の2月から延期していた。三密対策を講じながらの開会式で森川

宏映座主親下(代読・阿部宗務総長)は、お言葉で医療従事者らに感謝と敬意を表された。そして、伝教大師一千二百年大遠忌御祥当を迎え「宗教

者として神仏に祈りを捧げ、人びとに寄り添う行動が必要。『己を忘れて他を利用するは慈悲の極みなり』の御精神を体し、心を一つにして宗祖大師へ報恩の真を捧げ、皆様と共に『明日の天台宗』を目指して歩みたい』と述べられた。

令和3年度通常会計歳入歳出予算は、歳入歳出ともに11億3378万円。歳入は令和2年度補正前の当初金額と同額の寺院教会納金で計上、歳出については節約をできる

法要模様はウェブで配信

祖師先徳鑽仰大法会関係については、伝教大師一千二百年大遠忌の関連法要として1年延期していた檀信徒を交えての教区法要、並びに令和3年10月から予定の教宗派法要の中止が発表された。

一千二百年大遠忌の御祥当行事は、6月3日に御祥当速夜法要、4日祥当日の午前には浄土院で長講会を営み、午後には御祥当法要、5日御祥当後法要を奉修し、3日間の御祥当報恩法要とする。各法要はウェブ配信される。

法要道場での感染予防対策を講じて、団体参拝道中の行動面での安全保障が困難であるとの理由から「苦渋の決断」(阿部宗務総長)に至った。ただ、今後の動向を注視しながら、大法会最終年度となる令和4年4月1日より令和5年3月末の間に義務化しない形で教区宗徒有志による法要の計画を促す。

阿部宗務総長は「法要を通して伝教大師さまの『志』である『み仏の慈悲に目覚めた人(菩薩)』の働きによって美しく浄らかな世界の実現を祈り、『不安な人びとに寄り添う』3日間の法要を全宗徒及び檀信徒共々勤めたい」と話した。

また令和3年4月からの再開を準備していた「不滅の法灯全国行脚」は凍結する。大遠忌機運醸成と伝教大師の魅力発信が主眼だけに、「コロナ禍での行事としての目的達成には至らない」と判断した。本年6月に迎える伝教大師

現在、総本山比叡山延暦寺根本中堂大改修事業に二宗拳げて取り組んでいる。祖師先徳鑽仰大法会第二期も、令和5年3月末で終了するが、大法会期間の再考や第三期の設定も視野に入れ、事務局会議等で検討協議を重ねる考えを明らかにした。

極微

「あれは運命だったんだな」という言葉を、聞くときがある。既に起きてしまったことだから、良い場合もともかく、悪い結果の場合はどうしようもなく、受け入れるしかない。当たり前だが、それをどう今後にかすか、が問題となるのだ。運について考えたことのない人はいないと思うが、極端な考え方としては「通りある」「自分は運に恵まれている」と思う人と、「自分は運がない」と思う人だ。どちらのタイプかによって物事への向き合い方も違う▼運が良いと思うタイプは、「順風満帆、何でも御座れ」という生き方になるだろう。一方、何事にも「ついていない」と考えるタイプは、常に悲観的な結果を思い描きがちになる▼ただ、物事の受け止め方で考えてみると、運というものの見方は違ってくる。たとえ不運なことに遭遇しても、その不運に怯まない人がある。嘆くばかりではなく、その不運を認めた上でどう対処すべきかと考える方に転換する人である。不運とうまく付き合うのだから▼成功への可能性が「50%」のとき、「50%しかない」と嘆くのか「まだ50%も残っている」と勇気を出すのか。どちらをとるのかという、後者でありたい。つまりは好運、不運とかではなくて、運なんて相手にせず自ら思うところに進んでいく勇氣の問題かも知れないのだから。コロナ禍の今、この勇氣こそ必要か。